

白井市議会

北総線専決処分を不承認

値下げ補助金 反対派「際限ない支出」

北総線の運賃値下げを巡り、白井市の臨時議会が1日開かれ、横山久雅子市長が値下げの原資となる北総鉄道への補助金の一般会計補正予算(約2360万円)を専決処分したことについて

て、賛成少数で不承認とした。不承認となっても専決処分の効力に変わりはないが、県と沿線6市などは5年間にわたり補助金を支出するとして合意しており、補助金を巡る問題は今後とも

尾を引く見通しだ。臨時議会は、横山市長が専決処分の承認を求めると招集した。議員の質問に対し横山市長は、「何度議会を開いても同じ結果になると思った。予算化で

きない場合、元に値上げされ、市民の不利益にあたりと判断した」と理解を求めた。これに対し、補助金支出に反対する議員は「今回の専決処分は法的根拠が不明

確」「値下げは事業者がやるべきで、際限のない公金支出につながる」などと意見を述べた。

同議会は賛成、反対派が10人ずつの同数だが、賛成派の長野紘一議長が採決に加わらないため、賛成9、反対10で不承認となった。

補助金支出は3、6月議会では議決によって予算案から削除され、9月議会では賛成、反対派の対立で空転、流会によって採決しな

市長は10月13日に専決処分し、その後、補助金の第1回分として788万円を支出している。

市長不信任案は否決

補助金支出に反対する議員は、横山市長と長野議長の不信任案を提出。両案とも賛成10、反対9となり、長野議長の不信任は可決したが、横山市長の不信任には4分の3以上の賛成が必要なため、否決された。議長の不信任も法的拘束力はない。